

三代 吉兵衛 薙髮道入ト云、又ノンコウト云、吉左衛門弟トモ云、道樂トモ云、攝泉堺ニ移住シテ陶器ヲ造ル、左樂ノ印アリ、是ハ別家ナリト、明曆二丙申二月終、

四代 吉左衛門 同一入ト云、元祿九丙子正月終、

五代 吉左衛門 同宗入ト云、一入養子ナリ、

六代 吉左衛門 同左入ト云、宗入養子ナリ、

七代 吉左衛門

又京都ニ陶師彌兵衛ト云者、樂四代目一入ガ嗣子ナリ、別家シテ一元ト云、彌兵衛家ノ祖トス、又山城玉水ニ陶師甚兵衛者アリ、一元弟子ナリ、伊縫甚兵衛ト云、甚兵衛閑齋ト云、宗助甚兵衛實子ナリ

衛實子ナリ

〔明和京羽二重三〕樂燒茶碗師

油小路一條下ル町 樂吉左衛門 知恩院町 樂彌兵衛

〔南方錄三〕袋入茶盃

秘藏の物は袋入にして用、天目の外、常の茶盃を袋入にする事は、珠光所持名物茶盃、天目同前に、臺子弓臺勿論袋棚等に被用、此遺風を以て、常の茶盃にても袋入たる事なり、凡のものの袋入無用たるべし、

〔茶湯古事談四〕古代は名物の茶わんならでは、袋に紫の緒つくる事は遠慮せしとなん、

〔渡邊幸庵對話〕一予が家に五器手の至極古き茶碗を所持候、袋は錦にて候、此由緒は朝鮮王の御物、殊に秘藏の由、高麗陣以後、福島左衛門大夫正則の手に渡り申候、其後故有て予致所持候、殊外古代の燒物故藥ほつくと起申候所有之候、他所に預置申候、

〔和漢茶誌二〕漆雕秘閣 十二先生之一俗云天目壺也、形見茶具圖贊、

天目壺